

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

呼吸器の障害のおそれ

注意書き

- 安全対策
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 - 取扱い後は手をよく洗うこと。
 - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 応急措置
- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 保管
- 換気の良い、冷暗所で保管すること。
 - 容器を密閉しておくこと。
- 廃棄
- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

3.【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ジメチルスルホキシド	9.0-11	67-68-5	(2)-1553	—

4.【応急措置】

- 吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 汚染された衣服を脱がせる。
洗い流してから水と石鹸で皮膚を洗浄する。医師に連絡すること。
- 眼に入った場合 数分間多量の水で洗い流し（できればコンタクトレンズをはずして）、医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 吐かせない。医師に連絡すること。

5.【火災時の措置】

- 消火剤 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 棒状注水
- 特有の危険有害性 ジメチルスルホキシドは可燃性。火災時に、刺激性あるいは有毒なヒュームやガスを放出する。87℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
- 特有の消火方法 水を噴霧して容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護 適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.【漏出時の措置】

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（自給式呼吸器付気密化学保護衣等）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- 環境に対する注意事項 環境中に放出してはならない。
漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法 危険でなければ漏れを止める。
及び機材 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7.【取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	消防法の規制に従う。
混触禁止物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全な保管条件	容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。

8.【ばく露防止及び保護措置】

製品としての情報がないため以下、ジメチルスルホキシドの情報を記載する。

ジメチルスルホキシド

管理濃度 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会	未設定 (2019 年版)
ACGIH(TLV-TWA)	未設定 (2019 年版)
ACGIH(TLV-STEL)	未設定 (2019 年版)

設備対策

87℃以上では、密閉系、換気、防爆型電気設備及び照明設備を用いる。
全体換気装置又は局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具	有機ガス用防毒マスクを着用すること。
手の保護具	不浸透性保護手袋を着用すること。
眼の保護具	サイドシールド付きまたはゴーグル形保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

9.【物理的及び化学的性質】

物理的状態、形状、色など	淡褐色の液体
臭い	無臭
pH	データなし
融点／凝固点	7.1-7.3
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
引火点	データなし
可燃性	データなし
爆発下限及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
動粘性率	データなし
溶解度(水)	可溶
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし

粒子特性 データなし

10.【安定性及び反応性】

製品としての情報がないため以下、ジメチルスルホキシドの安定性及び反応性情報を記載する。

ジメチルスルホキシド

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	情報なし
危険有害反応可能性	加熱や燃焼により分解し、硫黄酸化物などの有毒なヒュームを生じる。 過塩素酸塩などの強酸化剤と 激しく反応する。
避けるべき条件	混触危険物質との接触
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	硫黄酸化物などの有毒なヒューム

11.【有害性情報】

製品としての情報がないため以下、ジメチルスルホキシドの有害性情報を記載する。

ジメチルスルホキシド

急性毒性

経口(ラット LD ₅₀)	14,500mg/kg、NITE の GHS 分類に基づく。
経皮(ウサギ LD ₅₀)	40,000mg/kg、NITE の GHS 分類に基づく。
吸入(ラット LC ₅₀)	NITE の GHS 分類に基づく。

皮膚腐食性/刺激性	NITE の GHS 分類に基づく。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	NITE の GHS 分類に基づく。
呼吸器感作性	NITE の GHS 分類に基づく。
皮膚感作性	NITE の GHS 分類に基づく。
生殖細胞変異原性	NITE の GHS 分類に基づく。
発がん性	NITE の GHS 分類に基づく。
生殖毒性	NITE の GHS 分類に基づく。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	NITE の GHS 分類に基づく。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	NITE の GHS 分類に基づく。
誤えん有害性	NITE の GHS 分類に基づく。

12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、ジメチルスルホキシドの環境影響情報を記載する。

ジメチルスルホキシド

生態毒性

水生環境有害性(急性)	甲殻類(ブラインシュリンプ) 24 時間 EC ₅₀ = 6830 mg/L、NITE の GHS 分類に基づく。
水生環境有害性(慢性)	NITE の GHS 分類に基づく。

残留性・分解性	データなし
土壌中の移動性	データなし
生態蓄積性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

14.【輸送上の注意】

国際規制

国連番号	危険物として規制されていない。
国連品名	該当しない
国連分類	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。

特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
他の危険物のそばに積載しない。

15.【適用法令】

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条、施行令第 18 条:ジメチルスルホキシド) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2:ジメチルスルホキシド) リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第 57 条の 3:ジメチルスルホキシド) 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(規則第 594 条の 2:ジメチルスルホキシド)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない
水質汚濁防止法	該当しない
消防法	危険物非該当

16.【その他の情報】

参考文献

職場のあんぜんサイト GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報
GHS 混合物分類判定ラベル/SDS 作成支援システム(NITE-Gmiccs)
NITE 総合検索

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における科学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではございません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いいたします。

改訂履歴 新規作成 2026年01月30日